

イエスのことば 第39回

イエスは弟子たちを呼んで言われた。「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしともにおいて、食べる物を持っていないのです。空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから。」(マタイ 15:32)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言(紀元27年の春、過越の祭り)を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架(紀元30年の春、過越の祭り)、復活、昇天

□文脈の確認

1. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1年余。
2. 紀元29年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約6か月間において、イエスは、異邦人の地域へ4回、旅行した。異邦人地域への4回の旅行は、**退避(リトリート)と休息の時**であったと同時に、**弟子たちの訓練**を目的とした。
3. 異邦人地域へのリトリート第1回：ガリラヤ地方を離れて、ガリラヤ湖の北東地域の町ベツサイダの近くへ。「五千人の給食」と呼ばれる奇跡を通しての訓練
4. 「五千人の給食」の奇跡の直後、嵐の中での訓練
 - (1) 給食を受けた群衆(ガリラヤ地方のユダヤ人たち)がイエスを王に擁立しようとするが、イエスはその動きを拒み、弟子たちだけを舟に乗せて出発させた(日没直前)。
 - (2) 弟子たちの舟は、日没後から夜明け前まで、湖上で嵐に見舞われる。イエスは湖上を歩いて舟に乗る。弟子たちはイエスの神性を認めた。
5. 舟は、ガリラヤ湖の北西岸、ユダヤ人の地域に到着。そして宣教拠点のカペナウムに戻ってきたときに、給食を受けた群衆が追いかけてきたので、「いのちのパン」の教え。
6. 引き続き、カペナウムでの出来事。監視団が、「汚れを洗いよめる」ことに関するミシュナ(言い伝え)に照らして、イエスは違反している、と非難した。これに対してイエスは、神がミシュナをどのように見ておられるのか、そして、人を汚すものは食べ物ではなく、人の内側にある罪の性質であると教えられた。
7. 前回は、異邦人地域へのリトリート第2回。ツロとシドンの地方へ。ツロでは、異邦人の女性がイエスへの信仰を表明し、幼い娘から悪霊を追い出していただいた。
8. 今回は、リトリート第3回、デカポリス地方。耳が聞こえず口のきけない人の癒やし、この人はユダヤ人。そのあと、イエスのもとに集まった異邦人たちに対して、「四千人の給食の奇跡」が起きた。

リトリート第3回・デカポリスにて

1. ツロからシドンを通り、デカポリス地方へ。この異邦人地域には少数であるが、ユダヤ人も住んでいる。そのユダヤ人たちが、耳が聞こえず口のきけない人を連れて来た

(マタイ 15 : 29)

それから、イエスはそこ（ツロ）を去ってガリラヤ湖のほとりに行かれた。そして山に登り、そこに座っておられた。

(マルコ 7 : 31)

イエスは再びツロの地方を出て、シドンを通り、デカポリス地方を通り抜けて、ガリラヤ湖に来られた。（補足：ヨルダン川西側のデカポリスを通過して、ヨルダン川を渡り、東側に。ガリラヤ湖とヨルダン川の東側がデカポリスの主要地域）

(マルコ 7 : 32～36)

人々は、耳が聞こえず口のきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださいと懇願した。

そこで、イエスはその人だけを群衆の中から連れ出し、ご自分の指を彼の両耳に入れ、それから唾を付けてその舌にさわられた。

そして天を見上げ、深く息をして、その人に「エパタ」、すなわち「開け」と言われた。

すると、すぐに彼の耳が開き、舌のもつれが解け、はっきりと話せるようになった。

イエスは、このことをだれにも言ってはならないと人々に命じられた。しかし、彼らは口止めされればされるほど、かえってますます言い広めた。

2. その地方の異邦人たちも、病人たちや障害をもった人たちを連れて来た。なぜデカポリス地方の異邦人たちはイエスのもとに集まってきたのか？ 参照マルコ 5 : 20

(マタイ 15 : 30～31)

すると大勢の群衆が、足の不自由な人たち、目の見えない人たち、手足の曲がった人たち、口のきけない人たち、そのほか多くの人をみもとに連れて来て、イエスの足もとに置いたので、イエスは彼らを癒やされた。

群衆は、口のきけない人たちがものを言い、手足の曲がった人たちが治り、足の不自由な人たちが歩き、目の見えない人たちが見えるようになるのを見て驚いた。

そしてイスラエルの神をあがめた。

(マルコ 7 : 37)

人々は非常に驚いて言った。「この方のなさったことは、みなすばらしい。耳の聞こえない人たちを聞こえるようにし、口のきけない人たちを話せるようにされた。」

3. 群衆が空腹になっているのを見て、イエスは給食の奇跡を行った

(マタイ 15 : 32~38)

イエスは弟子たちを呼んで言われた。「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから。」弟子たちは言った。「この人里離れたところで、こんなに大勢の人に十分食べさせるほどたくさんのパンを、どこで手に入れることができるでしょう。」すると、イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」

そこで、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。

そして七つのパンと魚を取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、**七つのかご**がいっぱいになった。食べた者は、女と子どもを除いて男**四千人**であった。

(マルコ 8 : 1~9)

そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。空腹のまま家に帰らせたら、途中で動けなくなります。遠くから来ている人もいます。」

弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

するとイエスがお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

すると、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、配るようと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るよう言われた。群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。そこには、およそ四千人の人々がいた。

	五千人の給食 (第34回)	四千人の給食 (今回)
群衆	ユダヤ人	異邦人
かご	ギリシア語「コフィノニー」 大きく丸い、頭に乗せて運ぶ	ギリシア語「スフィリダス」 小さい、手提げハンドル、手で持つ
かごの数	12	7